

2011年7月の柔道部OB会場で、村井暹(のぼる)氏から柔道部誌の編纂について提案があり、検討が始まった。しかし、なかなか進まない。

12月23日に関西でOB会を開催した。村井さんも名古屋から来られて、何とか部誌を出版したいと、熱い想いを訴えられた。OB会には、M22の岡野先輩をはじめ12名の参加があり、こんなに楽しい会は滅多にないほど盛り上がった。参加者の心には何らかの記録を残したいとの想いが残った。

このときの様子は名古屋工業会大阪支部のホームページで紹介した。



↑中央左が村井氏(1962年2部で優勝時)

[http://nit-osaka.com/useful\\_information/111223judoubu\\_obkai\\_kansai.pdf](http://nit-osaka.com/useful_information/111223judoubu_obkai_kansai.pdf)

また、OBの感想をまとめるべく行動を起こした。名古屋では部誌の編纂を諦めたようだが、印刷物でなく、電子出版もあるし、ホームページでその経過を紹介することが可能である。

## 1. 関西でのOB会点描

山本泰三(M39)

2011.12.23

### ●岡野勝敏大先輩(M22)

新日鉄が全盛時代の柔道部の監督をされていました。社会人柔道大会では何度も全国制覇されました。その背景としては、元々昔の岡野流の柔道として父親が柔道や剣道のしなをされておられた。柔道についてのコメントは……

「最近、日本の柔道の重量級は弱くなった。柔道の極意は「卵を握るように柔らかく握ること」から生まれる。最近では指導者がいなくなった。柔道の真髄をどう伝えるかは重要な課題である。」

岡野さんから柔道の真髄をお聞きしておきたいものである。



### ●矢倉日出夫氏(B43)

経営工学B43卒業で主将をしていた。この時期、名工大としては東海地区で1部に昇格した最も強かったことが記録に残されている。

小学校のときから正義感が強く、当時の人気漫画「イガグリ君」に憧れての腕白であった。父親が柳生神陰流の武道に通じていたこともあり、柔道を通じて自己を磨いてきたそうで、柔道に一際思い入れが深い。



● 山本泰三 (M39)



こんなにうれしそうな顔をしているのは珍しい。  
昨日は 12 名の参加、本当に嬉しい楽しい 1 日でした。  
岡野大先輩から、柔道の極意のお話を伺い、各位の柔道、人生での経験などについて、大変深い交流が出来ました。

※私が入社した大阪ガスの敬愛する故安田博社長の追悼記念誌を、入手しました。

「暢神」という書が示してありました。

「欣游暢神」とは、伊藤博文が書いた言葉で

「楽しく遊んで精神をゆったりさせること」リラックス、リフレッシュよりはるかに奥の深い言葉と感じました。

②柔道部の歴史、OB の活動は、今後の後輩、一般学生を含む社会に残すことが出来ると思いますし、出来ると思います。

まずは、内部関係者向けという考えもありますが、

これだけ内容の深いものですから、一般の方にも読んでいただけるものにできるように思います。

※たまたま、他のテーマで発行が具体化しつつあります。

引き続いてのテーマであり、これを実現して、70 歳代のメインの仕事として、社会のわかる技術ジャーナリストになりたいという夢を設定します。

**2012,7 追記**

村井さんから、柔道部誌の発行を断念したとの手紙を頂きました。

これからどうするか、前向きに考えようとしていると、やはり「欣游暢神」ということばを思い出しました。

出版計画については「暮らしとエネルギーの安心を求めて」という主婦、生活者を対象にした原稿を出版社に送り込みました。近々、光文社から発刊されることになります。



**欣游暢神**



## 2. 「心技」の創刊について

重松紀雄氏 (K40)

昨日は楽しい時間とその時の写真、ありがとうございました。皆さんのお元気なお姿を拝見しまして、私自身に多大な活力を頂きました。今日からまた頑張りましょう。その席上、山本先輩が心血注いで整理されました〔心技〕を見せて頂いて、1号(創刊号)について、心の隅に残っているほんの僅かの記憶を少したどる事が出来ました。

〔心技〕発行は、真弓主将、井戸・赤尾両副将の時だったと思います。その前年、私共の学年が部を纏める役を仰せつかっておりました時望月主将、渡久山・平岡両副将の時、〔柔道部部集(正式名称は忘れました)〕なるものを作りました。当座、大学のガリ版を借りまして、数名で手分けして鉄筆で汗グッショリになって原稿を書いた事を思い出します。

青刷りの部集が出来まして、全員に配ったと思います。この現物は長い間、手元にありましたが、今は見あたらなくなりました。(その内に、見つければお見せします—可能性は無限に0に近いですが) これを発行したのは、昭和38年秋頃だったでしょう。その翌年、真弓主将時代に〔心技〕という名前で、活字印刷された立派な本に進化させたものが発刊されました。

私のほんの薄っすらした記憶では、この〔心技〕は創刊号または1号とせず、2号として出されたように思います。理由は、その本の文集が手刷りとは言え既に発行されていたからです。もしそうなら、1号—創刊号—は永久欠番 となりますか。

律義で礼儀正しかった真弓主将以下の面々が、「創刊号」と名乗らず2号で始めた—可能性がかなり高いと思いますが、末利さん、そんな記憶はありませんか。



## 3. 真の柔道の真髄の伝承 大場直之氏 (E41)

先日は、お世話になりました。高原さん、窓口のご苦勞に感謝です。

懐かしい方々にお会いでき、昔に戻った気持ちになりました。岡野大先輩を筆頭に、皆さん、陽気で、元気、気力にあふれて頼もしい限りでした。

山本先輩には、会場も貸していただきありがとうございました。いただきました QMS,EMS の特集、拝見して先輩の大きな意気込みと包容力を感しました。

ISO9000 シリーズ,ISO14000 シリーズに、私の関係する RA(リスクアセスメント)を軸とする OHSAS18000, OSHMS も対象は違っても、PDCA を回して目的を達成するという点では同じです。先輩が書かれているように、ともすれば取得することが目的になって書類ばかりが多く



なる、中小企業には荷の重いものになってしまいますよね。先輩の、書類を減らして簡便にし、目的に合わせてより実用に即していく、ということに大賛成です。

規格の開発者や審査の大元は、権威づけのためか、とかく敷居を高くする傾向があります。これからは、中小企業の経営の立場を配慮した方向付けを加速したいです。柔道の極意、これからの世界や幸せの在り方など、先輩の本が発刊されるのを楽しみにしています。

私ごとでは、70歳間近になり、間違いなく記憶力・体力は低下しています。でも、気力・好奇心・向学心は盛んで、それが体力を引っ張ってくれている感じです。

会社で、若い人たちとも一緒に騒ぐ、健康の秘訣と感謝しています。仕事に加えて、下手な絵画、下手なゴルフ、野菜作り、旅行、家内とのバラのガーデニング(つるバラを中心に300本)の手入れと、忙しいけど充実した生活を送っています。

岡野大先輩のお元気さや、96歳にスペイン語をマスターして南極へ行かれた伊藤大先輩の話など聞きますと、まだまだ自分はひよっ子の年齢、これからだと自らを鼓舞しています。

生産性のない金融第一主義や、間違ったグローバリゼーションから脱皮し、ものづくりへの回帰、真のグローバル化へ、私たちの世代の願望に向けて、私たちの世代が、若い人たちに良い伝統や思想を伝承していきたいものです。

「力を抜いて、風のごとく、しなやかに、相手の力を活用して勝つ」、真の柔道の真髄は、これからの私たちの生き方、国や世界の生き方にも相通じるものがあると思います。

## ●大場さんからのメールについて (山本からの返信メール)

見識の高いメールを有難うございます。

貴君が地に足の着いた立派な仕事をされていることが、ヒシヒシと伝わってきます。手間を惜しまなければ、このままで上記ホームページに掲載可能ですが、少し手を入れていただければよりベターです。

【「力を抜いて、風のごとく、しなやかに、相手の力を活用して勝つ」、真の柔道の真髄は、これからの私たちの生き方、国や世界の生き方にも相通じるものがある。】

このとおりと思います。少し、具体例、方策を示してくださり、初めての読者に伝わるようになると、わかりやすくなります。ご検討くだされば幸甚です。

- 私は、来年まず都市ガスが生活の中でどのように進化してきたか、現在の課題は、安全に対する一般の方の理解を含め、どのようなものか、主婦、女性にも面白い内容、読んで得したと思う内容なるよう工夫した本作りに最優先で取り組みます。正月中に枠組みの案を書いてみる積りです。  
幸い、出版社は乗り気ですので、来年の初夢を実現したいと願っています。

## ●柔道の真髓から中高年の志、誇り、そして若者の未来へ

生産性のない金融第一主義や、間違ったグローバリゼーションから脱皮し、ものづくりへの回帰、真のグローバル化へ、私たちの世代の願望に向けて、私たちの中高年の世代が、若い人たちに良い伝統や思想を伝承していきたいものです。

「力を抜いて、風のごとく、しなやかに、相手の力を活用して勝つ」、真の柔道の真髓は、これからの私たちの生き方、国や世界の生き方にも相通じるものがあると思います。

もう少し具体的に言いますと

1. まず、身近な自分のできることから始める。私の場合は、自分の安全コンサルタントの仕事を通じて、中小企業を軸に「安全・安心」の啓蒙活動をすること。人の安全教育、若い内からリスクへの感性を培うことはもちろんですが、合わせてたとえ人がミスした場合でも安全を守る仕組みづくり、それが機械の安全です。その仕組みをいかにローコストかつ効果的に達成するかをお手伝いします。

利益第一主義ではなく、安全・安心を優先することで、利益は付いてくるという考えです。今回の原発の問題でますますリスクアセスメントの重要性が認識されてきたと感じています。

2. 中高年のそれぞれが、自分の得意分野を生かして仕事やボランティアで実践していく。肩を張らず、自然体で、若い人たちに得意技やものの考え方を伝承していく役割です。例えば、今、中国は日本の中高年を積極的に雇用して、ものづくりの職人技を取得しています。このままでは、日本のものづくりの伝統は、国内では衰退していきかねません。
3. 政治、行政に望みたいことは、過去の負の遺産を取り除いて欲しいということです。「規制緩和の低減」「縦割り行政の見直し」「地方分権」など——民主党の初期のマニフェストを推進することが、民間の活力を生むと思っています。まず一步一步、理論より実行です。一部の既得権からの脱皮、大阪維新の会の躍進は願けるところです。
4. 真のグローバル化について。

私としては、規格、言語(英語)、単位、など、ハード面は、できるだけ国際標準にしていくべきと思います。しかし、思想、得意技(ノウハウ)、などは各国の違いがあって当然です。そして違いを尊重しあえる共通のルール。まずは、身近なところからスタートです。身近な若者たちに、説教ではなく、培ったノウハウを伝承していきましょう。最も身近なところが出来なければ、世界までの距離は遠いでしょう。

また、世界は一面で弱肉強食の面もあります。強くなくては生きていけない。やさしくなくては生きる資格がない。というフレーズがありました。強さとやさしさを兼ね備えた日本、日本人でありたいものです。

2012年1月

E41卒 柔道部OB 大場直之

#### 4. 東北遠征合宿・三陸旅行の思い出と東日本大震災 高原喬二 (D46)

43年も前の話になりますが、私が大学3年の夏休みの時、名工大柔道部は秋田経済大学に遠征合宿をしました。

この合宿は、当時の柔道部顧問で秋田出身の又井不二雄先生、そして柔道部マネージャーであった故・原田（旧姓樋口）君に企画していただいたものだったと思います。



それは、私にとって人生初の長旅となりました。東京までどのようにして行ったのか忘れてしまいましたが、上野からは夜行の急行に乗車したことを覚えています。そこで二十代後半と思われる、ソニーで働いているという女性達と合席になりました。「ソニーは女性でも仕事について意見を言え、やりたい仕事があれば職場も変わることが出来る。」「ソニーは男女同権で他社にはない制度がある。」などなど、彼女達の仕事に対する熱意漲る話に感動したものでした。

当時、私の親父は最新鋭のソニーのトランジスターラジオを、私も同社のテープレコーダーを使っていたので、もっと彼女たちと話がしたかった。

ところが、お酒を飲んでいましたし、名古屋からの長旅で疲れが出たのか寝込んでしまいました。恐らく彼女たちは仙台で下車したのだと思います。

秋田経済大学の近くの商人宿に泊まり合宿が始まりました。練習の終わった夕方には、秋田の繁華街川端でよく飲みました。皆して寒風山にも行きました。「なまはげ」の登場もありました。合宿が終わると、帰りは各自自由に旅行となりました。

私は東北周遊券で三陸の宮古、浄土ヶ浜、田老、宮島、塩釜、仙台などを巡りました。高校地理の時間には勉強しましたが、それまで一度も見たことがない三陸のリアス式海岸の自然に直に接し、驚きの連続でした。浄土ヶ浜は三陸の代表的な観光地で、白浜と巨岩の、自然の造形の美しいところでした。あたかも巨大な仏像が浜に横たわっているようでした。餌をもらうために観光船に近づくウミネコたちの姿も印象に残っています。

田老では、駅のある海岸から歩いて急な山の上に立つ国民宿舎に泊まりました。延々と続く10mの巨大防潮堤を前に「これがあれば津波は大丈夫だ。」と宿舎に行く途中で出会った地元の方が話しておられた事が今でも頭に残っています。昭和35年のチリ地震津波の時には被害は皆無でしたが、今回の東日本大震災では、倍以上の高さの津波に防潮堤はやすやすと越えられて無残にも破壊され、多くの犠牲者が出ました。先日、ラジオNHK第一放送を聴いていると、震災直前に田老の港に着いた一隻の観光船が、地震直後船長の判断で沖合に逃れ、津波の被害に遭わず辛くも助かった、というインタビューがありました。

その船長が、「今年の新年の初日の出クルーズは素晴らしかった。人間が作ったものはすべて無くなったが、自然は元に戻った。観光船は一隻になったが春から定期観光を再開したい。」と話しておられました。

地震津波は天災です。田老では過去何回も地震・津波に見舞われ、八割以上の村人が犠牲になられたこともあったそうですが、その度に立ち直ってこられました。右の放送を聴いていても、震災に負けるわけにはいかないという人の力を強く感じます。しかし、今回は地震津波だけでなく、原発事故による放射能汚染がさらに復興を厳しいものにしていきます。

原発事故は人災です。遺伝子に影響を与え、生命を子々孫々に亘って痛めつけます。科学を勉強してきた者の1人として原発事故は残念でなりません。明治時代渡良瀬川公害訴訟で田中正造の「真の文明は山を荒らさず、川を荒らさず 村を破らず 人を殺さざるべし」という言葉が胸に重く響きます。

人生で初めて東北を旅して、東北は私にいろいろな感動を与えてくれました。当時は今ほど食べることに對して関心のなかった私ですが、それでも旅行を通して様々な食材を使った料理を楽しむことが出来ました。また、地元では見ることのできなかつた珍しく美しい風景や、よそから来た私に親切に「標準語っぽく」話して下さった東北の人々のあたたかさを忘れることが出来ません。

退職して年金生活の身ですが、被災地復興のためになればと、ほんの僅かではありますが、毎年寄付をしていきたいと思っています。

そして、また機会を作り、学生時代と同じコースで東北を旅してみたいと思っています。

## 5. 柔道部回想 築瀬正純（旧性 小笠原、D39）

熱く激しく柔道に打ち込んでから半世紀、今や体も思うように動かなくなったが、柔道部について少し書いてみたい。

### 1. 柔道

色々スポーツがあるが、柔道は勝負の厳格さを教えてくれた。即ち投げた時の快感、また畳に投げつけられ負けた時の悔しさ、そのせいで青春を柔道に打ち込めたのが懐かしい。また、相手と体を激しくぶつけたせいか、人の気持ちを理解するのにも役立つように思う。

### 2. 先生、部員

合宿等の部活動で柔道以外にも人間関係等色々教えられた。また、一年毎に入学、卒業があり部員の先輩、後輩から色々教えられたのも良かった。

柔道について言えば、私が新入生の時、手を取り足を取り理論的に柔道（技）を教えてくれた吉村先輩（2年先輩）、ぶつかっても、ぶつかっても岩のように立ちはだかった二宮先輩（1年先輩）が懐かしい。また、クラブ活動を指導してくれた又井先生、吉村先輩も良く思い出す。

### 3. 心身鍛錬

忙しかった高度成長時代を無事退職できたのは柔道で心身鍛錬したお陰と部活動に感謝している。





## 6. 「柔道はわが師」 堀内 満 (M43)

大学へ入学して、今まで高校時代は、なんとなく勉強して、いい大学に入って いい人生を歩むための過程の学校時代という感覚で、それぞれにいい成績をとる事だけで、目的なんてものは何にも無いところから、大学に入学したとたん、大学生活をどのように有意義に送っていくのかを、自分で選択する第一関門がやってきました。



今まで、何を勉強したくて、頑張ってきた事も無く、今後もおそらくこのままであろうと想像されながら、何かクラブに入

部しようと思いがらぶらぶらしている間に、どなたからか、それとなく誘われ入部いたしました。

①入部半年までの間は、こんなしんどい、面白くも無いスポーツ、いつやめてやろうかと、常に機会を狙っていたような思いです。

②そうこうしている内に、実家の運送屋で鍛えた力が幸いして、初段にすぐになりました。

③おだてられる内に、少し強くなりたいと言う欲が出てきたように思います。

④そうこうして、1年ほどやっているうちに2段を取れて、今までの先輩を追い抜いてやれと言う、意欲の中で実質3年間を一生懸命過ごしたように思います。

⑤柔道をしている時に、何が自分を駆り立てたのかと考えると、少しでも体を鍛えて 精神的に強くなりたいという思いと、漠然とした生活の中から、少しでも自己満足 をしたいと言う思いでありました。

⑥今まで、酒もタバコも、麻雀も、女性も知らない中で、少しずつ、大人の環境を、それとなく教わって行く中で、自分が大人に成長していく事の優越感かな？

⑦今回想すれば、勉強は適当であったが、柔道だけは自分なりに負けたくないと思い、必死に頑張りました。

自分では全く意識せずに社会人になりましたが、その中で、この柔道生活が、自分の性格に大きな財産を残してくれた事に気付きました。

1-1) アルミ会社に入社いたしました。1年先輩が〔早稲田柔道部3段〕の人で 私の入社を心待ちに待ってくれ、入社1年未満で一緒に柔道場新設、柔道部開設を果たし、社内で有名になりました。

1-2) 柔道部の上下関係、礼を重んじる、負けなための気合、ガッツ、等が今までの自分に備わっていないはずのものが、知らず知らずの内に備わっており、仕事を非常に円滑に回せていけました。

1-3) 結局、理由があって、8年で会社をやめることになりましたが、今でも前の会社の先輩、後輩たちと考えられない付き合いをさせて頂いています。

1-4) 悪い事は、理由の分からない腰痛、足首の変形が原因しているのかな、と推測ぐらいで、わが人生に柔道が「わが師」であったと、明言出来ます。

## 7. 「記録作りは形を変えても粘り強く工夫を！」 村井暹様 山本泰三

昨日、名工大大阪支部の集まりで、重松さん、末利さん、久野さん(A46)と一緒に。村井さんから頂いた手紙を、会議中に回覧しました。部誌の発行について積極的な反応はなかったです。

●昨年、記念誌作りを断念したという断りの手紙を井戸さんから頂きました。検討の経緯は分かりませんが、彼なりに悩んだことが伺えました。そして、まとめ役を辞退し、浜本さんに引き継いだとありました。

従いまして、一旦機関決定したものを復活させるには工夫・仕掛けが要ります。7月に同窓会をする時、諮ったかと久野さんはいっていましたが、これでは進みません。新規にお金をかけて原稿作成を募るのはとても難しいです。

私は次のように考えます。

①東海学柔連の20年史及び心技を貴重な財産として有効に活用すべきと思います。

②お金をかけるとなると、難しいというのが、井戸さんからの手紙に書いてありました。

出来るだけ抑制の工夫が必要です。

③岡野先輩には何としても5～10ページ程度の柔道に対する考えを記事にできると、動機付けになります。また、エポックメイキングな事象を取り上げるべきです。

私の経験はなんと言っても昭和37年冬に、2部で優勝したことです。

同様に一部に昇格した時の格闘の様子などを示すべきでしょう。

④冊子のイメージは□の資料を生かすとなると、最大200ページをイメージして構成、割付を考えるのが良いと思います。出版の時期は30年、60年の節目に再度検討を開始するというのが、限度でしょう。

発行が目的であれば、来年になっても差し支えないと思います。

⑤3月6日～8日まで東京へ出張します。

本を2冊出版するという事で、出版社の編集者との打合せ、取材、情報収集活動が目的です。

有料で買っていただく本で、6月頃までの発行を考えています。

ノウハウを沢山吸収できますから、その後であれば、協力できると思います。

⑥名工大大阪支部のホームページに柔道部の先日の会合をアップロードしています。その後、約5名の方から感想などを頂戴しましたので、落ち着きましたら追加のアップロードをします。夏のOB会までに20年史や心技をアップロードして記念誌の土台を提示するのが良いと思います。

参加者、OB、現役部員がイメージできると、議論も進み、具体的なイメージ、提案が出てきます。

出版の前に叱り状態ですと、これをコピーすれば、50ページで1万円、一部100円で作れます。

スタートはこんなやり方も良いのではありませんか。

村井さんの周りで、協力してくれそうな方に、反応を聞いてみてください。あせらずに進めることが肝要です。よろしくお願いいたします。

● 「出版計画はひとまず休止」 村井さんから 6月27日

拝啓 ご無沙汰いたしてしております。

その後お元気にてご活躍のことと拝察いたします。

先輩より3月にメールを頂き、柔道部誌作成の件につき何とか吉報をお届けしたいとOB会長と折衝を重ねてきましたが、現状では部誌作成は困難と判断し、断念することに決しました。



元々、本年(平成24年)は、わが柔道部創設60周年(昭和27年創部)又井先生御退官30周年(昭和57年御退官)の記念すべき年に当たりOB、部員らに歴史と伝統ある名工大柔道部に対する熱き思いを書いてもらい、又井先生、吉村先輩、真弓君らの霊前に捧げたいという趣旨で言い出したことですが、いまひとつ盛り上がり欠け、やむなく上記の決断に至った次第です。

『綿言汗の如し』『君子は豹変す』両極端な諺がありますが、この世の中、『倫言汗の如し』というのが死語になっている感じがします。私も空手部の関係者から知恵を借りる、出版者から見積りを取る等色々準備をしてきましたが矛を収め、この件はこれで終わりにさせていただく所存です。

逆にこれを『天の啓示』と受け止め、今後仕事に精を出そうと思います。

敬具

## 8. 「記録と情報発信は形を変えて前進させよう」

山本泰三 6月30日

村井 暹様

手紙を頂戴し、有難うございます。

貴兄の頑張りのご様子、拝察いたしました。青春時代の思い出を残し、引き継ぐ方法はいくらかもあります。記念誌だけが解ではありません。

空手部の経緯は読ませていただきました。柔道部は柔道部として、対応を考えればよいことです。

今は冊子にする必要もなく、とりまとめが検討できます。

まずは、大阪支部のホームページにその後の経過を書いてアップロードします。

色々と所用があり、申し訳ありませんが、7月7日の柔道部のOB会は欠席させていただきます。

※できればこのときまでにアップロードをしたいと思いますが、作業できれば連絡します。

●何らかの形で記録を残すべく、まずは大阪支部のHPに掲載手配したことをOB会でご報告ください。また、今までのデータも整理して、いずれかのホームページにアップロードの作業を進めます。

岡野先輩が出席された場合は、よろしくお伝えください。いずれ、姫路まで取材に行かせて頂きたいと思います。

●私自身は「エネルギーと暮らしの安心を求めて」という本を大手出版社から発行します。

原稿はすでに東京の出版社に送りました。

引き続き「原発に頼らない電力供給のあり方」について出版の作業を始めます。

主婦、生活者向けの本で、これらが出版にこぎつけられれますと、柔道部の記録作りにも取り組みたいと思います。実績が認められれば、市販の図書として柔道部の活動状況を出版する可能性が出てくると思います。

「綸言汗の如し」は知りませんでしたが、Wikipedeia で確認しました。「君子は豹変す」も確認しました。両極端なことばではなく、両立するように思います。発言の重要さ、重さと一方で、世の中の状況の変化に柔軟に対応することの重要性を説いたものです。

大阪ガスの安田博元社長（故人）は最も尊敬する方で、次のことばを残されています。魚が泳ぐさまのように「欣游暢神」（楽しくあそんで精神をゆったりさせること）が今の私の生き方の指針です。

このことばにあるように、残された人生を有意義に過ごしたいと願っています。

まずはご報告方々貴兄のご努力にお礼を申し上げます。 ■